

8月の行事

- 4日 道路愛護運動
- 5日 鹿児島大学、コミ訪問
第9回事務局会議
- 6日 磯レクリエーション、浜清掃
- 10日 夏祭り・エビス祭り
- 19日 地域内清掃
- 20日 第10回事務局会議
- 21日 助八古道を育む会 14:00

西山地区

コミュニティ協議会だより

【(西風) 令和6年度8月号】

発行：西山地区コミュニティ協議会

会長 中村史傳

令和6年8月6日発行

薩摩川内市下甕町瀬々野浦 1194

TEL 09969-5-0122

FAX 09969-5-0355



途中で飲むジュースも美味しいものです。



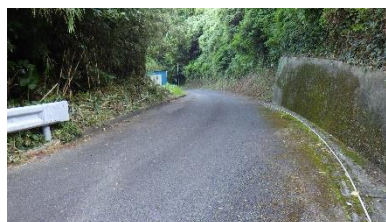
海岸清掃 7月25日
7月の第三日曜日は高齢者クラブの行事と重なるため第2日曜日に予定された。ところが雨になり7月25日の実施になった。帰省者も含め多くの方々が参加されました。お疲れさまでした。
帰省客も綺麗になった海岸でゆつくり子ども達や孫達と遊ぶことが出来るようになりました。

ゴールド集落自主活動

7月28日

多くの行事が雨で延期になる中ゴールド集落自主活動は順調に実行され、村は6班に分かれた班ごとに草刈り等が行われました。

上左古町、上中反圃、上右的場
下左新町、下中小迫、下右開田



磯レク&磯遊び (ツブキノ浜)

雨で八月六日まで伸びた磯レクレーションが行われ、合わせて磯のゴミ掃除が行われました。持帰った磯ゴミは船で持ち帰り分別しごみステーションに運び込みました。

燃えるゴミが9袋燃えないゴミが6袋でした。



シリーズ16 故郷を深く浅く探る

エビス祭りのこと 中村史傳

エビス祭りがおこなわれるようになったのは昭和三十四年九月一日である。当時の西山小中学校の児童・生徒作文集に校長の松山重昭先生は「エビス祭りが復活した」と書いておられる。

この時の祭りは漁協の主催で「ビールやサイダー」を海に投げ込んで、水中眼鏡なしでそれをつがせるといふ趣向であった。この日は二学期始業式で、このビールかつぎは午後におこなわれたので、かつぎのできる子供も参加した。

海は多少しけており海の水は濁りかつ水中メガネなしなので大変だったらしい。気の利いた者は夕方になって海が風ぎ水が澄んでからビール二本とサイダー一本をかついだと作文にも記される。もちろん水中メガネはかけている。

前号で紹介した民俗学者桜田勝徳は瀬々野浦のエビス石についてこう記す。

『ここ(瀬々野浦)では漁期の始めに両親がそろっていて、一家の評判の良い青年が一人選ばれて、この者が新しい手拭いで目隠しをなし海に飛び込んで海底の石を一つ拾ってくる。そうしてこれを夷石(エビスイシ)

と称してお祭りをするという儀式があるというが、もうあまり正確には行われていないらしい。隣の内川内(こうち)という部落では同様の儀式によって人体の形の石を拾った年は大漁をなすといい、今日でも毎年石を改めてまつているという。』(「甕島遊記」より)

これは昭和八年の聞き取りであるので、(この頃にはエビス石かつぎの習慣はなく、なつて現在の浜口のエビス石を祀っていたようだ。現在のエビス石の由来についても桜田は書いているのでこれは後ほど記す。)話を戻す。エビス石かつぎの風習(故事)聞いていたものがない、ビール・サイダーかつぎの行事となつたのではないかと思う。

ともあれ九月に行われていたエビス祭りはいつしか帰省客の多い八月となり、ビール・サイダーかつぎは餅投げへと変わったのだ。

エビス石かつぎは、海の底から福を拾うという古

人の思想であり、それがビール・サイダーかつぎの発想につながつたような気がしてならない。



エビス神社 (ご神体はこの中)